

【「イギリスのEU離脱ドタバタ劇」と
「アメリカの政府閉鎖」は連携した動き！？】

⇒編集後記で

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【2つのビットコイン自動売買アプリ⇒完全無料でもらえます】
⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/29/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

どうもゆうです！

さて、ここ最近ですが相場やってる人がやたら
聞く単語が

「イギリスのEU離脱」と「アメリカの政府閉鎖」
だと思います。

まあ世界がすごい騒いでおります。

それでなんとなしにみんな感じ取ってるように
この2つの動きってのは連携してるわけですね。

なんとなく表のニュース見ていると

それぞれが独立した事象に見えるんだけど

実は大きな根っこの部分ではつながっています。

これが実は 田中宇先生の説である

「多極化説」につながってるんですね。

私ゆうは結構いろいろな言論を日本語でも目を通してますし

英語でも見るんだけど

やはりいろいろ時系列検証してこの

「多極化説」ほど世界をうまく描写してる理論は

存在していないな、なんて思います。

ちなみに多極化説ってのはかなりぶっちゃけて書きますと

今まではアメリカ帝国で なんととってもアメリカ様

でしたが

この帝国支配が200年で終焉していきまして、

その過渡期に私たちはいるのだけど

これがこれから、BRICSなんかの新興国たちで

世界でまさに多極的にいろいろな強い国が出てきて

そこで中間層が平均的に出てきて世界経済引っ張っていく

っていうモデルのことです。

これは田中宇先生が日本に持ってきた理論体系だと

と思いますが、

私も海外にいてどの原理原則が現実描写力があるか？

を見るけどこの多極化説ほど、世界の流れをうまく

時系列に描写してるものはなかなかないな・・・

と感じます。

それで今

イギリスのEU離脱ドタバタ劇とアメリカの政府閉鎖ってのが

大きな世界の焦点になってますが

これは連携してるわけですね～

それで、やはり既存の「イギリスが影で支配して
アメリカが帝国化していた流れは崩される」ということです。

ちなみになんで ドルとポンドって動き似てるの？
(相関してんのよ)

っていうとそういう諜報関係理解していないと分からないんですね。

例えば金が強くなればドルが弱くなるけど

これは歴史的にドルと金=ゴールドが敵同士だからですね。

それで今日はこの辺の

アメリカ政府閉鎖とイギリスEU離脱について

FXなり株の本には一切載らないことだけど

長期投資の上では重要だから考えましょう！

編集後記で！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【2つのビットコイン自動売買アプリ⇒完全無料でもらえます】

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

さて、今日は新しい案件が開始しました。

なんとこちらの案件ですが

ビットコイン用の自動売買のツール

1 トレンド相場用

【DNA-Crypto】

2 レンジ相場用の

【DNA-Crypto-TYPE2-】

2つのEAをもらえるということです。

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/29/>

暗号通貨なんかは一時期の盛り上がりは

今はなくなっております

ビットコインは40万円ほどですが

やはり市場が一応去年あたりに形成して
今は暴落中でITバブルの時に似てますが

今はFXの自動売買とかが主流ですが
これから暗号通貨の自動売買なんかも
徐々に出てくるでしょうから注目ですね～

それで通常自動売買は

トレンド相場用の自動売買はレンジ相場では

~~~~~

~~

負けを計上しますし、

~~~~~

レンジ相場用の自動売買は暴騰暴落のときに

~~~~~

負けを計上しますが

~~~~~

それぞれの負けを補って作られたのがこちらの

~~~~~

~

2つで、

~~~~~

トレンド×レンジ 両方のEAを使って

~~~~~

ヘッジしよう

~~~~~

つてのがこの案件で なんと両方の自動売買が無料です。

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/29/>

今日はこちらの案件担当してる
小野さんから
読者さんにメッセージです

=====

※完全無料でもらえた！

小野です。

自動売買ツールはロジックが得意とする

相場の際は利益を出しやすいですが、

相場に合っていなければ、

利益を出しにくい事もあります。

今回、自動売買ツール導入のアドバイスを

している森本義之さんがプレゼントしてくれるのは、

トレンド相場に強い

【DNA-Crypto】

と

レンジ相場で安定利益を追求する

【DNA-Crypto-TYPE2-】

の2つアプリ。

2つのアプリを使って、

相場が大きく動いていても、

値動きが少ない相場でも

資産を増やしてください！

ほったらかしにできるうえ、

アプリなのでスマホから操作ができて

非常に便利です。

完全無料でもらったので、

読者さんも今の内に受け取っておいてください。

↓ ↓ ↓ ↓

<http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/29/>

=====

以上です！

それで今回は仮想通貨投資や

自動売買ツールの

導入アドバイスをされている

森本さんが

起動させておくだけで

現金とビットコインが

どんどん増えていく可能性がある

ビットコイン自動売買アプリ

【DNA-Crypto】

と

レンジ相場の安定利益を追求した設計の

ビットコイン自動売買アプリ

【DNA-Crypto -TYPE2-】

の2つを “生涯完全無料” で

~~~~~

プレゼントするものです。

~~~~~

DNA-Crypto は、

暴騰暴落といったビットコイン特有の

トレンド相場に合わせた設計をしており、

もう一方の DNA-Crypto -TYPE2-は、

DNA-Crypto の補強として、

レンジ相場（値動きが少ない相場）

での安定利益を追求した設計

となっています。

この2つを組み合わせることで、

トレンドとレンジ両方の相場環境で

利益を取りに行くことを目指している

ということです。

トレンドとレンジそれぞれの相場に強い

E Aを2つ運用してヘッジしていくということなので

さらに今回無料でもらえますので

ぜひ検証してみるとよいと思いますね～

【2つのE Aが無料でもらえます】

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/29/>

それで昨日は

【失敗からデータを取ろう！】

ってこともかいてるけど

**結局検証・テストするのは失敗データを取るために
やります。**

**それでこれはどんな優秀なシステムでも自動売買でも
何かしら工夫して改善できる点があるので**

少額なりの検証が必要になりますよね。

**それで大体通常はEAってのは3ヶ月くらい
そこで検証するのですが**

今回はずばり

1トレンドに強いEA

と

2レンジに強いE A

です。

ひとつのE Aだけでは安定って絶対しないのだけど
ここでそれぞれのE Aの「負け」を補うって

発想は大事ですが

今回はそれぞれの負けを補うということで

~~~~~

2つのE Aをあわせて検証してみませんか、

~~~~~

という案件ですね～

それでこの開発者の森本さん、

結構いろいろなE A作って試行錯誤されてる方ですので

どんどん改善されてると思いますから

今回はこの2つのEAの組み合わせなんかは

なかなか面白そうです。

裁量取引に加えてまたヘッジとして

暗号通貨の自動売買も加えてみようという肉食な方は

ぜひ2つの自動売買が完全無料でもらえるので

見てみるといいですね～

【2つのEA

1トレンド相場用

【DNA-Crypto】

2レンジ相場用の

【DNA-Crypto-TYPE2-】

が無料でもらえます】

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/29/>

=====**編集後記**=====

さてさて、世界が荒れていますね～

それでアメリカの政府閉鎖劇とかは以前に扱ったので

良かったら過去の号を見てほしいですが

見ない人のほうが多いでしょうから

一応復習兼ねて、PDF張っておきます。

政府閉鎖をやたら人質みたいにして交渉する

トランプのや、くざぶりですが

やはりこれは知っておく必要があります。

【米国政府閉鎖を長引かせてでもトランプ大統領がやたら
壁建設にこだわる真の理由とは何か？】

⇒ http://fxgod.net/pdf/trump_wall.pdf

ちなみに個人的に思想を明確にしないで

あたかも一般論であるかのように扇動する文章が最近多いのに

私は違和感を感じるから

私は思想を明確にしておきますが

私はやはりトランプのやり方を支持してますし

また、イギリスはEU離脱して一度ぼろぼろになるのが良い

という考え方です。

(これは日本の官僚たちの考え方と逆です)

なぜなら多極化がそこで加速するからです。

そして、そこで、棚からぼた餅で日本の官僚支配が

弱まることを考えて、です。

ちなみにですが最近の日本の情報体系はすごいですよね。

以前から「政府は統計を粉飾してるんだ」ってことを

書いてたけど

ほら、最近 厚労省の統計意図的操作とか

ニュースでありましたでしょ??

私も自分なりの情報は持ってるから

やはりこういうのは知ってる。

もっと言うとアメリカの失業率も嘘なんですよ。

本当はアメリカの失業率なんて30%超えてるんだけども。

これも16個くらい統計データがあるんだけど

そこで一個だけよいものを雇用統計で発表してるんですね。

んでこんなことは、霞ヶ関にいらっしゃる官僚たちは

知ってるわけですし、

マスコミ関係者も知ってるでしょう。

けど隠してるだけで。

それで政治バランスが崩れたときにこうやって

厚労省の統計データ不正とかが出てくるくらいの

感じですよ。

だからきっとあのデータ不正は私の読者からしたら

「あ、メルマガで書いてあったことが表に出てきた」

くらいだと思います。

ちなみにユーチューブの規制なんかもすごいものですが

あれも銃器関係の動画禁止とかありますけども

それも全部政治とつながっていて

アメリカ合衆国憲法修正第2条では

銃保持権利を認めているわけです。

けど「なんで銃保持権利なんてあるの？」

ってことだけど

これは「抵抗権思想」といいまして、

政府ってのは怪物リバイアサンのようなもので

簡単に重税や徴兵で 民衆のカネと命を奪えるんです。

だからそこで アメリカに民兵として立ち上がって

政府に対抗できる権利を持たせるべきだ

という自由主義思想があるんだけど（これは民主主義思想じゃない）

その自由主義思想が、修正第2条に反映されてるわけです。

それでアメリカってのはこの

自由主義と民主主義が初めて合体した

近代デモクラシー国家でありますから、

そこでトランプ大統領が出てきて銃保持権利を

保護する政策を出すわけです。

一方、リベラルは銃は規制して民衆丸腰にしたい

わけで、それが多国籍企業のグーグルが独占状態である

ユーチューブサービスなんかの規制にも降りてきてる

わけです。

が、やはりこれは言論表現の自由への対抗であるから

トランプも黙っていないだろうということで

グーグルに対して戦う姿勢はトランプは見せてますね。

それで、トランプは政府閉鎖を長引かせていますが

これは実は

イギリスEU離脱と同根の動きなわけです。

大きくは上で書いた「多極化を進めていく」ことに

リンクしてるわけですね。

それでイギリスがE U離脱をどんどん進めていけば

どうなるか？というと

イギリスはやはりかなり苦しくなりますよね。

当たり前ですけども。

けど私はE U離脱は賛成派なんです。

多極化が進むから。

それなのでよく分かるのですが

E U離脱派がいう「E Uからイギリスが脱却したら

もっと反映する」ってのは嘘ですよ。

これはもしアメリカ大統領がヒラリーだったら

そうだったかもしれません。

けど今はトランプ大統領です。

このトランプ大統領はメルマガですっと扱ってきたように

「アメリカの帝国覇権をぶっつぶすために

出てきた大統領」

であります。

そもそも彼を支持する茶会党の人らの思想が

「いったんアメリカの腐ったところをつぶして

大変だけど 米国債もデフォルトさせて

1からスタートして、地域覇権国として

なんとかがんばりましょう」

の思想です。

私が好きな政治家がそんなことをずっと

言い続けてアメリカの若者に人気が出たロンポールですが

彼の思想がまさにそれでトランプは基本的に同じです。

それで今はトランプがアメリカ大統領なんだから

アメリカはどんどん覇権を落としていく、衰退する

流れなわけです。

それで今までイギリスってのはイギリスのシティなんかが

隠然と、アメリカの背後にいてアメリカを操って

それで軍産官僚なんかを通じて

支配してきたってのは詳しい人はご存知だと

と思いますが

だからまあドル円とポンド円も似たような動きを

ほんと繰り返しますが

相場は嘘つかないですよ。

それでもイギリスがEU離脱して

そこでアメリカ帝国の覇権が強いままなら

それでもイギリスは強くいけるんだけど、

アメリカは帝国の覇権を放棄したいトランプが

大統領です。

そしてそのイギリスの代理であった軍産官僚たちも

これもうトランプに負けてきてるってのが

年末までの流れ。

だから今までのようにイギリスってのは

アメリカの背後に隠れながらステルス化しながら

軍産官僚通じて アメリカ政治をコントロールする力も

なくなってきたるわけです。

だからここで EU離脱したとしても

アメリカの背後で力を行使できないのですから、

イギリスは弱体化せざるを得ないんですね。

一方もしイギリスがE U離脱しないで

E Uの中に残留することを決めてたら

まだイギリスはE Uの政策とかにかかわることが

できまして、影響力を与えられたのですね。

ちなみにE Uってのはあらゆる面がよく見ると

バラバラで、それぞれの国が機能を譲渡して

統合していけば強くなれるのに

バラバラ状態だったわけです。

ギリシャ問題なんか分かりやすい。

これはイギリスが E Uが統合されるのを邪魔していたから

でしたけども

そこでE Uってのは対米従属せざるを得なくなっていました。

けどもうE Uを統合していきたい人たちからすると

イギリスという邪魔者がいなくなりましたから。

またアメリカでは帝国覇権放棄、対米従属国を

自立させようというトランプが大統領ですから

だからE Uはこれから対米自立や軍事統合を進められる

地盤になってきた、わけですね。

それでイギリスの内部でも E U離脱派が強いつてことで

当然 戦略の違いで 派閥が分かれてるわけですが

E U離脱の選挙結果では離脱派が勝ったわけで

そっちの離脱をさせる派閥が勝利したわけですが

これはまんま、トランプのつながりです。

トランプが離脱選挙前に 離脱派が勝つんじゃないかな～

なんて言ってたのはあれは全部知ってるんですね。

実際は国民投票とか言っても

世論扇動の力、プロパガンダ力は民衆にはありませんから

選挙ってのは一応

表向きは自分たち民衆の主権者で代表を選べるという

口実だけど

実のところみんなうすうす気づいてるように、

選挙やる前から結果ってのは作られてるわけで

これはイギリスも同じですよ。

本当は最初から決まってるんだけど

一応民衆に「自分たちで選んだと錯覚させる」

のが選挙システムです、現代の。

こんなことはみんな言わないけど

政治分析とか金融分析とかやってる人たちは

本当はみんな気づいてるはずですよ。

ちなみに以前私のメルマガで2012年3月に

「以前に首相をやった安倍さんを首相にするって

CSISが決めたようだ」

って書いたんだけど、

これは当時の読者でかなり多くの人が見てる記事だけど

そのときはテレビにも安倍さん

一切出てなかったら「ほんまかいな」くらいの反応でしたが

その後一気に彼が出てきて首相になったんだけど、

これはハーバード大学のジョセフナイってのが当時

かなり日本の首相を決める権限を持っていたようです。

基本的にはフロントとして首相や大統領がいるわけですね。

後ろにはもっと金持ちとか諜報機関が控えてるってのが

勉強していると分かることです。

それで一応イギリスのフロントとしては今は

メイ首相です。

相当 失礼ながら日本人としてみると

「へたくそな EU離脱方法」ばかり取ってますよね。

あそこまでドタバタさせればイギリスは世界から

信用をさらに失うだけです。

が、本当はそれが目的だ。

それで1月17日には イギリス議会在メイ首相の

E U 離脱案に大差でNOを突きつけた。

それでじゃあ イギリスの野党の労働党が

メイ政権に対する内閣不信任案を議会に提出したけど

これはこれで また NOとなりました (笑)

世界から見たら「いったいなんだこのイギリスという国は」

となりますが、

とにかく「ドタバタ劇」になるように

画策されてる感じがありますよね。

上の話でいえば 労働党がその後政権取って

新政権が別のE U 離脱案なりを提案したりもできたけど

これはもうできなくなった。

そしてメイ首相を続投させながら

労働党も別の離脱案でうまーくすり合わせればいいのに

ここで謎に労働党は代替案を出さないわけです。

もう明確に混乱させることを目的としている。

それでこのまま行くと、

「離脱した後の準備せざる離脱」になる可能性が

ありまして、

3月29日の離脱予定日を迎えることとなりますね。

この3月29日ってのはFXとか株やってる人は

ご存知のように EUの憲法50条で決まってる日ですけど

これはEU加盟国の 特にドイツやらフランスやらが

「別に5月とか6月に延長してもいいよ」とやらない限りは

延期できないのですね。

けどEUの盟主2カ国のドイツもフランスも沈黙です。

そもそもフランスはデモが起こっていてそれどころじゃないわけで

そう見るとフランスのデモもまるで延期させない口実になってるようにも

思えます。

それで本当はEU離脱するならイギリスとしては

「ちゃんと準備して」離脱しないといけないけど

このまま2ヶ月経過すると 無協定離脱、です。

それでここで 今まではEUの1カ国ながら

EUに強力な影響力を持っていたイギリスですが

ここで無協定での離脱になると??

イギリスとEUの間での人とモノが国境を通るたび

旅行と貿易なんかで

厳しい出入国審査だったり、高い関税の話になりまして

ここでイギリスは大きな経済的にも社会的にも打撃を味わう。

食品の輸入品も高騰したり、ここでまあ暴動も起こるでしょうし

結構な混乱になります、カオス。

だからもうイギリス当局は非常事態体制に準備してますね。

もうイギリス内の他国の工場はどんどん撤退していこうと

してますけど当然の判断です。

だからこの イギリスのEU離脱ってのは

イギリスという国家自身の大きな危機ですけど

挙党一致体制でもなく

ああでもない、こうでもないで すったもんだ

してるわけです。

まとまらない。

だから大きく見ると

「イギリスは自滅する策をやっぱり取ってる」

ということになります。

そう、「アメリカと同じだな？」ってことです。

それでこの辺は田中宇先生が昔から書いてきたけど

無視されてるけど

やっぱり本当のことでしょうが、

別に信じなくてもいいですが

一応イギリスの支配者って誰よ？

って話になりますが、

よく言われるのが王室と貴族とロス茶とかそんなものです。

茶はチャイルドですよ。

これはまあ常識的な認識だろうと思います。

けどやはり 諜報、インテリジェンス分野をもっと

考える必要があつて

本当は彼らが表で

一応 アメリカのCIAだとかDOD国防総省

MI6、あとはファイズアイズという勢力がいるわけですよ。

この辺の諜報分野の話はやはり大事です。

彼らがプロパガンダとか扇動の主ですから。

実際にプロパガンダってすごいですよね??

日本のマスコミが何か報道したらみんな信じるわけじゃないですか。

私のメルマガでは 厚労省やら総務省の統計は操作されてる

ってよく書いてますが

それよりもみんな ○○新聞でそれが報道されたら

信じるわけで、これらの権威主義性ってのは洗脳だけど

それは現代人で日本人だけに限らずどの国の人

洗脳されます。

これをやってるのが諜報界ですから。

まあ頭良い人たちが集結してます。

それでももともとはこの諜報界はイギリスとアメリカってのが

重要な国になりますが

もともと日本とドイツ倒すために

イギリス、アメリカ、オーストラリア、カナダ、イスラエル

のアングロサクソン系の5カ国の諜報網が創設された

わけで

そこでやはりイギリスが中心です。

だから日本の歴史の教科書で教えられる史実は

まあ表向きっていうか洗脳で実際は諜報機関のことは

一切知られないように作られてるわけですね。

それでイギリスの諜報界が冷戦を実際は起こしたろうし

そこでアメリカを牛耳ってイギリス好みの冷戦構造を

維持するために

この諜報網は使われたわけです。

プーチンはそういうの全部知ってるから強いんですよ。

KGBだから。

それでここでネットで有名な ロックフェラー悪玉論が

ありますが

私も以前はこれを信じていたことがあります

どうも違うと。

実際はもう少し複雑です。

実際に、これはご存知のとおり、

ロックフェラーが死んで、その後はキッシンジャーが

番頭だけど

トランプがキッシンジャーを選挙期間中に2016年の

早い段階で訪問してそれが写真にとられて

「次の大統領おまえな」ってなってるわけです。

キッシンジャーにみんな政治家が頭あがらないのは

これが理由です。

それで本来このロックフェラーたちの勢力ってのは

どうも田中宇先生の分析だとやはり多極化勢力

だったけど

途中で英国系の諜報界に入り込まれてるんですね。

1960年代に今のトランプのようなことを

ケネディがやろうとした。けど殺されたけども。

ここでアメリカがイギリスを振り切って自立しようとしたけど

それを防ぐためにイスラエルが招きいられて

そこでイスラエルロビーが相当 軍産官僚として

アメリカでは強かった。

それでトランプはレーガンを尊敬しますが

あのレーガンが冷戦を終わらせて一度は

このイギリスの諜報界の支配力は低下していました。

が、そこで きゅーいちいち が起きたわけで

平仮名記載なのは察してほしいけど

あれが あの ひげ面のおっさんが計画したと

信じてる人は相当洗脳されてる、不可能ですから。

実際はやはり自分らでやったんだ、ってのは知られてるけど

ここでイスラエル系がアメリカを牛耳って

結局中東で見られた ずっと続くあの永遠のテロ戦争が

起こったわけです。

それが、去年年末のトランプの中東シリアからの

米軍撤退で流れが変化したわけですが

長かった。

それを崩すのに2001年のあの事件から

20年近くかかったわけですから。

それでじゃあ「ネオコン」ってのはなんだ？

って話ですよ。

あの過激な戦争をやりたいと「表では」発言する

ネオコンです。

ちなみに私は早稲田時代に政治学の授業で

実際にネオコンについての研究授業もありましたが

このネオコンは大学で学ぶ。

けど大学の教授でもいまいち本質は言わないんだけども。

それでこのネオコンってのは何か？っていうと

「表向きは過激なこという」んだけど

「必ず失敗させる勢力」です。

フセインが大量破壊兵器隠し持ってる～とわざと

いって攻撃して実際見つからない

⇒信用がた落ち

ですがこういうことを敢えてするのが

ネオコンです。

あの流れがなかったら今のトランプの中東からの

米軍撤退は起こらなかったわけですが

もうイスラエルも今は弱いけど

政治学では その起こった結果 をすごい重視しますが

結果としては

ネオコンの「失策」として

イスラエルは弱体化され、英国系の諜報機関も

軍産官僚としてアメリカでは追い込まれてるわけです。

トランプが実際はネオコンと仲良いつてのは

その辺が理由で

例えばですがネオコンのボルトンをトランプは

重職に起用するけど

あれで マスコミは「トランプは戦争おっぱじめる気だ」

とやったが

「結果は」というと

むしろ逆で 世界からの米軍撤退、

および米朝首脳会談実現です。

また南北首脳会談もその前に実現された。

ちなみにこの南北朝鮮関係は

冷戦の後に残った、最後の冷戦構造でしたね。

が、もう私は今韓国にいてその事態を見てるけど

韓国と北朝鮮はくっついていきます。

だからネオコンってのは

「表向き過激だけど実際は失敗させる」

っていう動きをやってきた連中です。

だから軍産複合体とネオコンってのは

同じようでも反対なんですね。

軍産複合体、軍産官僚たちってのは過激な戦争じゃなくて

「脅威」がほしいわけですから。

それでじゃあトランプは一体どこのエージェントだ？

っていうと

この流れで見たら分かるように

彼は諜報界の中でもアメリカ系の支配層のエージェントですよ。

多極主義の人です。

んでやはりEU離脱を仕掛けてるのもこの勢力でしょう。

ロックフェラーは死んだからやはりキッシンジャーなんかが

かなり力持ってるはず。

それで もっといえば 韓国のムンジェイン大統領選挙で

私はこの文さんの思想分析をメルマガで公開していたものですが

そこで「おそらく彼はキッシンジャーを背後に抱えてる」

と書いたはずですよ。

数年経過して「なるほど」と詳しい人なら分かるはずですよ。

南北首脳会談も背後がそうだから当然なんですよ。

そういう諜報まで見ると政治がある程度分かってくるわけで

私が2016年とかもっと早い段階から

南北が統一の方向に向かっていくと書いていたのは

この辺見てたからです。

だから全部 根っこは同じなわけですよ。

それでもうトランプ側は、多極側の勢力は

もうイギリスとイスラエルで主に構成される

軍産官僚に勝利しつつあります。

だからどうもイギリスのEU離脱のドタバタ劇と

アメリカの政府閉鎖のドタバタ劇

これ全部 同じ勢力が仕掛けてるのはもう

間違いないな、ということですよね。

ここまで重なるってのは確率的に

偶然で起きないですから。

だから日本がアメリカの属国だ、といますが

そのアメリカは実際は長いこと英国のシティだったり

イスラエルの属国でしたでしょうが

そこから脱しつつありますね。

それでこの辺の諜報戦略の分析は田中宇先生で

実際に 一部の大学なんかでは 最近

インテリジェンスという学問が政治学で誕生してますが

その最先端をいってますが

どうもアメリカの諜報界の一部としてトランプ大統領がいて

ネオコンがいると解釈できますが

彼ら米国系の諜報界がイギリスに入り込んで

イギリスの戦略をねじ負けているというのが

分かりますよね。

すなわちイギリスの与党野党にもぐってるわけです。

ちなみに、日本にもいるでしょうが

それは私は遠めから見て分析してます。

それでイギリスのEU離脱劇が完全に

はちゃめちゃで 自滅的で

このままだと無協定離脱になりそうですが

それを狙ってる動きは見て取れるということです。

もしここでイギリスがうまく行っちゃうと、

逆にトランプの敵であるイスラエルロビーであったり

軍産が息吹き返しますから、

ここでやはりトランプ大統領がある種フロントとして

世界の多極化を推し進めてますが

ここでなるべくイギリスが邪魔できないようにする

という動きがあるわけですね。

政府閉鎖が長引く理由としてこの辺もかかわってるでしょう。

トランプは意図的にアメリカの信用を落としている。

だからこの政治バランス、諜報界のバランスが

背後にあるのが

「イギリスのEU離脱劇と

アメリカの政府閉鎖問題」

ですからね、

というと、どうもこのイギリスが離脱案をうまく

まとめられないで

テンパる状態はずっと続きそうです。

ということはポンド円ロングするときは

相当ストップ気をつけないといけないよ、

ってことが分かりますね。

一方ショートの場合は結構伸ばせる可能性が高いと

判断は今のところできます。

だから「なんでドル円とポンド円って動き似てるの？」

ってみんな思いますが

こういう上の諜報機関の話分からないと

その辺の相関って分からないんですね。

んで当然 表のメディアだと書けないことだらけですから

みんなこの相関性の意味が分からないってなるわけです。

情報がないというのは怖いことですね。

それで無協定離脱だと大混乱、

なんとかドイツフランスが動いて3月29日から

延期してくれたとしても

やっぱり離脱案はまとまらない可能性が高いです。

だって諜報機関の人らが後ろで妨害しますから。

んで私はそれでいいんだろう、と思ってる人です。

やはり世界は多極的發展のほうがまだまだ

幸福に世界經濟は發展できるだろう、と私は考えてます。

だからアメリカの今後の動きは変わらず

帝国霸權放棄の動きが続き、

イギリスもE U離脱で弱くなっていく、

一方E Uはいろいろ大変けども長期では

國家統合と対米自立でなんとか生き残るかもしれない

という感じですよ。

それでじゃあイギリスをEU離脱させたい人らは

なに考えてるか？というところ

最近はこのイギリスが日本とオーストラリアがやろうと

しているTPP11に加盟したがつてます。

また中国なんかと金地金の価格決定に絡みたがつてますよね。

もうだから彼ら離脱を進めたい人らは

やはり新しい多極化に対応しようとしておりまして

それが彼らの「グローバル英国」という思想ですよね。

ちなみにこの「グローバル英国」と似た言葉で

最近中国のメディアを見ると

「グローバル4.0」ってのが出てきてますが

たぶんここで中国とイギリスもくっついていくわけです。

んでTPP11にもイギリスはくっつきたいと。

だからイギリスも1枚岩ではなくて

この既存の力持っていた諜報機関は弱体化しておりまして

今はどうも 米国系諜報機関の

新勢力が台頭してきておりまして

彼らがトランプたちと連動しております。

そんでイギリスがくっつきたがってる

TPP 11 というのは TPP 12 とは違いますけどね、

この差も日本の方が理解していない部分ですが

TPP 12 は (イギリスバックの)

アメリカが入って、そこで ISDS 条項 っていうのが

やばかったんですけど

TPP 11 は 比較的 その ISDS 条項 の刃 が 弱い。

ここを日本とオーストラリアなんかが進めていく

という流れです。

これは安倍さんがやってるけど、本当の本音を言うと

「後ろに小沢さんいらっしやるんじゃないのかな」

と私は見てまして、

おそらく連携してる動きなんでしょう。

小沢さんでも思想的に同じことやったはずですから。

(ちなみに安倍のお母さんの
洋子さんの相談役は小沢さんです。)

それで、このTPP 11なんかにイギリスも加盟したがつてますが

もうこうなると

対米従属の流れってのは変わってきますから

そうなるとやっぱり今までの

軍産官僚たちの利権であった

世界中の米軍は撤退していくわけです。

とりあえず トランプ大統領は

1段階目として 中東からの米軍撤退を

実現させてきてますが、

次は、極東アジアからの米軍撤退の流れ構築が彼の

2020年までのノルマとなります。

そこでトランプというかキッシンジャー博士たちは

やはり南北の親密さをもっと引き上げないといけませんし

また米朝のトランプと金の間で

米朝国交正常化レベルまで持っていけないといけない

となりますね。

ただ今はその「トレンド」です。

それで日本や韓国からはこれから米軍撤退の流れが

作られていきますね。

古くは日本の官僚機構ってのは

明治維新なんかでイギリスのグラバー商会なんかの

関与があって

同じく200年ほど力を増してきましたが

ようやく大きなダイナミズム変化が起こってくる

ということです。

ここですごいな、と思うのは最近日本の若者が

公務員就職はどうもまずそうだ、ということで

給与はよいのだけど民間に行く人が出てきてますが

若者ってすごいですね。

上のような知識はないけど、たぶん生来の若い勘が働いて

民間に就職したり

中国に語学留学しにいたりするわけです。

だから今の大人が若者を理解できなくて当然ですね。

彼らのほうが精度高い未来を見てるわけですから。

ということでやはりこれから

在日米軍や在韓米軍は撤退の流れかと思われそうですね。

それでイギリスはしばらく 「戦略的に」

荒れる可能性が高いということですね。

ということで私たちが生きてる間に

ひとつの時代が終わろうとしておりますね。

日本では今まで役人が相当威張ってましたが・・・

それを担保してくれるプロパガンダや諜報のバックが

年々、薄くなっていくことが想定されます。

今まで官僚に不都合な発言とか書き込みは

全部情報統制してつぶしてきたわけですが

これも在日米軍撤退の流れが出てくるのと同期して

それらが徐々に機能不全を起こすことは

私は想定してます。

そうすると多くの日本国民がようやく

「夢から醒める」わけです。

例えば最近は小さなところだと

厚労省の統計改ざんだったり

あとは国税庁職員が税務調査先で泥棒したりの

ニュースが出てきちゃってますが

以前は同じようなこと沢山していただろうし

けども、握りつぶせる力があつたはずなんです

これらも表に出てきてます。

ということで日本では官僚機構が今まで

絶対君主として政治家の上に立ってきましたが

どうも変化が訪れる可能性は大いに想定できますね。

すべての事象はそれなので 別々の事象に見えて

根本ではつながってたりするので

アメリカの政府閉鎖やイギリスのEU離脱が

やたら同じように ごちゃごちゃしてるってのは

同期した動きだからですね。

それこそ、スティーブバノンが言うように。

この辺が分かるとよく世界の流れが見えてくるものです。

世界の動きって分かってくると

大体その流れで進むし

面白いですね～

それでは！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【2つのビットコイン自動売買アプリ⇒完全無料でもらえます】

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/29/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

